

巻 頭 言

院長 西土井英昭

地域医療構想が県単位で議論され、ある程度のコンセンサスが得られてきました。それぞれの病院が独自に方向性を定めて生き残りを図っています。そして今年の診療報酬改定はその方向性を大きく左右するものでした。しかし、病院が各自方向を決めると言っても、結局、国の思う方向に動かざるを得ず、手の平の上で右往左往している感じです。

そのような中、我が鳥取赤十字病院はどうあるべきか、真剣に見定めなくてはなりません。どの方向に進むとしても基本に忠実であるべきです。やはり理念を大切に、患者を中心に、誠実な医療を心がける、そして自己研鑽に励むことです。

鳥取赤十字病院医学雑誌No.25が関係者の努力により、今年も発刊することができました。その努力に感謝するとともに職員の皆様がこの医学雑誌を手に取り一読することにより、職員全員のモチベーションが上がっていくことを期待します。

平成28年11月吉日